強制動員真相究明ネットワークの新潟研究集会、佐渡フィールドワークに参加した。「青春 18 きっぷ」で行った。一日では無理なので、長野県の大学の友人・伊藤一幸さんをその前に訪問した。8/24 (水)、神戸から宮田 (飯田線) まで 10 時間。ぜんぜん退屈しなかった。立ったり座ったり、前に行ったり後ろにいったり、つり革で筋トレしたりストレッチしたり、「乗り鉄」を観察したりされたり。詳細は「ゆうさんの自転車/オカリナ・ブログ」(飛田雄一で検索)を参照ください。

翌日、天気がよければ木曽駒ヶ岳にロープウェイで登るつもりだったが、悪天候で断念し宮田村をウロウロした。伊藤さんの家にはアジア・太平洋戦争の時期、登戸研究所が疎開してきた。その遺品も残っている。伊藤さんは、そのことなどを「陸軍登戸研究所本部の疎開先が宮田村の真慶寺であった」(『伊那路』2021.12)に書いている。





左、伊藤家の民俗博物館のような納屋。右、納屋の前で右から 伊藤一幸さん、原英章さん、唐木達雄さん。お二人は会いにき てくださった。最近、『伊那路』に、「上伊那へ来た農耕勤務隊 一戦争末期の朝鮮半島出身の「日本兵」一」(5回連載)を完成 させた。

宮田から新潟まで 10 時間。これも充実した時間をすごした(同ブログ、その2参照)。集会前日(8/26)新潟に着きまた夜の街をウロウロした。ウロウロばっかりだ。

研究集会 (8/27、第 14 回強制動員全国研究集会)のテーマは、「強制労働否定を問う一佐渡鉱山の遺産価値を高めるために」。会場は、新潟県自治労会館。会館の人がよくしてくださった。感謝。集会後、タクシーがひろえず焦っているときには宣伝カーもだしてくれた。感謝感謝。

佐渡鉱山の世界遺産登録問題。真相究明ネットは、申請そのものに反対しているのではない。強制連行の歴史も含めて申請するべきだと主張している。(同ホームページの2022/5/9「「佐渡島の金山」世界遺産推薦内容の改訂を求める声明」をご覧いただきたい。日本文、英文がある。)

研究集会に韓国から参加する5名のビザ申請関係を神戸学生青年センターが担当した。真相究明ネットは任意団体、神戸学生青年センターは公益財団法人で可能とのことだった。コロナ下、ネットで事前申請が必要だった。が、これが、ひどい。センターの団体申請

から始まって、来日予定者のコロナ関連の書類を日本政府の機関に申請し、その「申請済証」を韓国に送る。 それがあって初めてソウル日本大使館への申請が可能になる。

申請期限が迫っても通知が来ない。あせった。ネット申請の最後の部分がうまくいかないのだ。やっと電話が通じた。担当者が「マイクロソフト Edge ではなくてグーグルで申請してくれませんか」という。かなり複雑な申請を Edge でできても最後にひっかかるところがあるようだ。「早く言ってよ」。午後3時タイムリミットという日の午前10時ごろ、完了した。

研究集会の報告は、以下のとおり。

佐渡鉱山での強制労働研究の現状・課題 広瀬貞三 (福岡大学名誉教授)/新潟における強制連行調査の経過 木村昭雄(もと平和教育研究委員会)/歴史の否定を問う研究者有志の声明 藤石貴代(新潟大学人文学部)/佐渡鉱山動員朝鮮人600人の名簿から 竹内康人(強制動員真相究明ネットワーク)/「証言」から見た佐渡鉱山朝鮮人強制動員の被害 金丞垠(民族問題研究所責任研究員)。佐渡現地からの報告もあった。他に、紙上報告として、「対話一一次世代がお互いに「問いかける」佐渡世界遺産問題」竹田和夫(鉱山文化研究)。

詳細は、資料集改訂版(A4、63 頁、送料とも 800 円) を参照していただきたい。購入希望者は前金で、郵便 振替<00930-9-297182 真相究明ネット>に送金 ください。

資料集はいずれの報告も充実したものだ。所収の 「証言」よりお二人を紹介する。

- ■1 李気容 1914 年忠南論山陽村鳴岩生まれ。 1941年10月頃、面職員に目をつけられ、強制動員された。釜山を経て3日間移動し、佐渡鉱山に送られた。 最初は肉体労働、運搬の仕事をしたが、後には電車の 運転をした。一部屋に5~6人が暮らしたが、監視が 厳しく、逃げられなかった。陽村面出身の動員者と家 族で集合写真を撮った。契約期間は3年だったが、守 られなかった。1945年9月ごろ、自力で船を探して帰 還した。
- ■2 尹鍾洸 1922 年忠南青陽木新興生まれ。1941 年、家に親、新婚の妻を残して動員された。青陽郡庁 に集められ、汽車で釜山に行き、連絡船に乗せられて 下関へ行った。そこから陸路で新潟へ、再び船に乗せ られて佐渡に行った。最初は金剛塾で軍隊式の訓練を 受け、その後、寮に入れられた。仕事は削岩した岩を 集める、トロッコで運搬するというものだった。ひど い埃の中で作業させられ、若いころは身体が丈夫だっ たが、年を取るに従い、咳や痰が多くなった。当時は 米がなくてソバが出たが、口に合わず、空腹だった。 最初2年という約束だったが、何の説明もなく契約が 更新された。休みをとることも自由ではなかった。解 放後、釜山港を経て帰還した。





2022.8.27 真相究明ネット第 14 回研究集会 (新潟)

8/28(日)は、佐渡鉱山フィールドワーク。集会翌日の船にのるとその集合時間(朝8時半)に間に合わない。集会後、大急ぎで片付け等をして、午後5時半発のジェットフェリーにのった。波もおだやか、快適だった。両津港からバスで約1時間、鉱山のある相川に着いた。

初めての佐渡、天気は快晴。朝、民宿の周りを散歩した。なかなかいい雰囲気だ。8時半、「きらりうむ佐渡」に集合。約50名。そこで展示、映像を見たのち、フィールドワークに出発した。レンタルバスの名前は、「OKESA」、なかなかいい。補助席もすべて満席。

バスで北沢選鉱場へ。そこから徒歩で、上相川社宅・第2相愛寮跡、佐渡鉱山供養塔を回って坂をおりて北 沢選鉱場見学。

再びバスに乗って佐渡鉱山。坑道は、江戸コースと明治コースがある。私は両方行った。少々時間がかかるがその方がいい。事前に「きらりうむ佐渡」で見た映像が参考になった。昼食は、各自ですませて、午後のフィールドワーク。これがけっこうハードだった。

搗鉱場・称名寺墓地(安田部屋供養墓)、諏訪町・第3相愛寮跡、金剛寮跡、万照寺(大塚部屋供養墓)、治助町・第4相愛寮跡、無宿の墓、大工町・共同炊事場跡、新五郎町・第1相愛寮跡、鉱山住宅。そして、坂を下って佐渡奉行所駐車場。そこから北沢選鉱場の全貌をみることができる。

バスで、大間港へ移動。そこでは積み出し港の跡を みることができる。そして最後にバスで相川開発セン ターへ。そこでフィールドワーク参加者、現地の案内 人も含めて有意義な交流会をすることができた。(フィールドワークの全貌のビデオ。観たいところだがで きるかどうか分からない。資料集のフィールドワーク ノートに地図、写真が収録されている。)







左、「きらりうむ佐渡」で唯一写真撮影が許されている場所。記 念写真をした。中、いたるところに「三菱」がある。右、「おけ さ」号。







左、第2相愛寮跡から見た選鉱場。中、竹内康人さんの紹介す

る民権活動家・有田真平の話に感動したが、内容は忘れてしまった。右、ふたつのコースの案内。





左、大間港。ガイドブックに「1892年に完成し専用の港。金銀などの鉱物の搬出や石炭などの生産に必要な物資の搬入用として整備され、コンクリート普及以前に利用されていた、たたき工法の護岸やクレーン台座、トラス橋が現存」とある。右、交流会の様子。

佐渡相川に更に一泊して翌朝 8/29(月)、バスで両津に向かった。佐渡南部をもう一日回るという川那辺康一さん、中川慎一さんを見送って、私たちのバスを待っていた。が、来ない。同じバスに乗らなければならなかったのだ。私は、ジェットフェリーの時間が気になる、更に新潟空港から関空行きの飛行機に乗らなければならない。真相究明ネットの若き技術主任・有田光希さんがタクシー(佐渡でのタクシー予約はたいへん)を確保してくれた。小林久公さん、堀江節子さん、有田さん、飛田の 4 人で両津に向かい、私はフェリーにも間に合った。飛行機にも間に合った。

が、予約表をみると一日まちがっている。次の日の 予約になっている。空港での変更をと思うがカウンタ ーがあいていない。格安航空会社(ピーチ)の悲哀だ。 新しく切符を買うのももったいない。あきらめた。新 潟に引き返した。また東横インに泊まった。翌日、新 潟市立美術館で「マン・レイ」を見た。よかった。カ トリック教会もよかった。

今度来たら、おけ船にも乗ろう、トキも見にいこう、 金北山 1172M に登ろう、佐渡一周サイクリング 210K もしよう、のどぐろ炙り丼も食べようなどと考えなが ら飛行機に乗ったのでありました。





「マンレイと女性たち」、カトリック教会。





入道雲。へぎそばは新潟空港で食べました。